関係を示してしまいます。それだけに、厳しく予見を排除した正しい視覚で読み取る必要があります。いずれにしても、寺院は防衛拠点となり得る可能性は持っていたけれども、その設立配置が軍事目的から出たものであることを立証する資料は皆無であります。

注(1)　新寺小路一帯の地域、何人のか判明しない古塚が八つあったので、この名が出た。

注(2)　「共武政表」（参謀本部、明治１２年）に『仙台……寺院１１０……』とある。

資料　仙台市史第３巻

日本都市成立史（玉置豊次郎）

９７　「実録先代萩」の「実録」とは「真相」の意味か、どうか

問　「実録先代萩」は「実録」とあるからには、それは伊達騒動の真相が描かれたものと信じてよいでしょうか。

答　「実録先代萩」とは、明治９年〔１８７６〕に河竹黙阿弥(1)〔かわたけもくあみ〕が書き下ろした歌舞伎脚本「早苗鳥伊達聞書(2)〔ほととぎすだてのききがき〕」が、現在そのような外題(3)〔げだい〕で上演されているので、その一般的な通称となっているものであります。この「実録先代萩」は、歌舞伎脚本の一系統である実録物(4)の一つで、実録物とは実録に基づいた狂言(5)という意味です。この場合の実録とは実説による脚色ということではなく、主として江戸時代の実録本(6)の脚色なのであります。従って事実の正確な描写ではなく、興味本位の内容ですので、それをそのまま真相であるなどと信ずべきものではありません。つまり、「実録先代萩」は伊達騒動の実説とはかけ離れたもので、あくまでお芝居伊達騒動なのであります。

なお「実録」の熟語は、「実際にあったことの記録」という一般的な意味よりは、特に中国に於ける「天子一代の事跡を編年体に記した記録」をいうのが本来の意味であります。これらの実録が集積されて、やがて国や王朝の正史編纂の主たる材料となるのです。中国の元朝以前の実録は殆ど散失したが、「皇明〔こうみん〕実録」3,０５３巻、「大清〔だいしん〕実録」4,４６６巻は現存して貴重な史料となっています。中国の実録を模倣したものに、わが国の「文徳実録(7)」１０巻、「三代実録」５０巻、朝鮮の「李朝実録」1,７０９巻などがあります。「実録」とはこのようなものですのに(8)、わが国の幕末以降に始まる「実録本」「実録物」の「実録」は、極めて特殊に転化した用法であります。要するにこの場合の「実録」は、講釈師の口述を詳細に、完全にその通り〔実〕に筆録した「実録本」を材料とした意味であって、事実以外に多分に虚構が混入され、潤色され、

終始観る者の興味をひくことを主として構成されたものなので、実説や真実や史実の記録ではないのであります。

注(1) 歌舞伎脚本作者。本姓吉村、後、古河。幼名、芳三郎。文化１３年〔１８１６〕江戸に生れ、５世鶴屋南北に師事し、２世河竹新七を襲名。作劇技巧に秀で、詞藻豊かであった。生世話物〔きぜわもの。芝居の分類の一で、初演当時の世相・風俗などを題材としたもの〕を得意とし、明治に入ってからは新社会劇散切物〔ざんぎりもの〕や、新史劇活歴物を創始した。作、「三人吉三廓初買」「白浪五人男」「島衛月白浪〔しまちどりつきのしらなみ〕」「早苗鳥伊達聞書」など。明治２６年〔１８９３〕歿。

注(2) 歌舞伎脚本。御家物〔御家狂言〕６幕。河竹黙阿弥作。通称「実録先代萩」明治９年〔１８７６〕６月東京新富座初演。実録本によって、伊達騒動を新しく脚色した。原田甲斐は多田刑部と結び、伊達家を滅亡させようと、乱行を理由に大守義宗を袖ケ崎下屋敷へ押込め、荒木和助をして幼君亀千代の寝所へ忍ばせたが、鉄之助のために捕えられたので、甲斐は発覚を恐れ、三左衛門に命じ和助に毒酒を飲ませる。甲斐の無情を怒る和助の忠告により三左衛門も改心し、水戸街道で黄門に訴えようとしたが捕えられる。黄門は万事のみこみ、三左衛門を白石へ送る。甲斐は更に伊達安芸や亀千代を毒殺しようとしたが失敗する。また義宗と安芸とを離間しようとしたが、茶道〔さどう。武家時代茶の湯のことを掌った役〕珍賀の忠義でこと成らず、義宗の愛妻高尾はそのために毒死する。亀千代の乳母浅岡の所へ、片倉小十郎は国もとから浅岡の一子千代松をつれてきて、親子は悲壮な生き別れをする。大老彦根少将の役宅で、甲斐と安芸の対決となるが、板倉内膳正の明断で甲斐は服罪をまぬかれぬこととなったので安芸を刺した。安芸は伊達家の安泰を聞かされ、喜んで瞑目する。「伽羅先代萩〔めいぼくせんだいはぎ〕」とともに、伊達騒動を扱った代表作品で、御家物のなかでも秀作であり、初演当時は、５世坂東彦三郎・２世沢村訥升後の助高屋高助・５世尾上菊五郎・４世中村芝翫・初世市川左団次・坂東秀調等のオールスターキャストで大好評を博した。神並三左衛門と荒木和助の牢屋の別れ、水戸街道、伊達家奥御殿の浅岡子別れなどが名場面で、殊に奥御殿の場は中幕物として独立し、この場だけの再演が多い。なお書き下しの時は、原田甲斐が世良田甲斐、伊達安芸が館安芸、浅岡が政岡というように本名をはばかっている。

注(3) 書物の表紙に記された題名で内題に対していふ語であるが、ここでは脚本の標題。芸題。名題〔なだい〕。

注(4) 歌舞伎脚本の一系統。実録に基づいた狂言という意味であるが、実説による脚色というよりも主として江戸時代の実録本による脚色が多い。従って事実の正確な描写よりも興味本位の内容である。題材は講談・落語によって人々に親しまれているものが中心。実録物は明治の開化期に入って、古典脚本の荒唐無稽な不合理な筋立に観客が不満を抱き始めた機

運に乗じて出現したものである。近代写実主義が悪い意味で時代物の中に侵入して、実録物の盛行となり歌舞伎古典の代表作品の実録化が行われた。しかしこの風潮は、史劇にまでは発展しなかった。そうした点で、演劇的には極めて低調な現象だったとされるのである。実録化の対象は、伊達騒動などのお家騒動、曽我・赤穂などの仇討、大岡政談・遠山政談などの裁き物、柳生・荒木などの武勇伝、そのほか白浪物・侠客物などに及んでいる。実録物の材料実録本は写本として貸本屋によって流布していたが、明治16〜17年頃から速記法と活版印刷の発達により大量刊行されるようになり、益々普及したので、戯曲の実録化に拍車がかかり、多数の実録物が生れるに至った。

注(5) この場合は歌舞伎狂言のこと。歌舞伎の演目、また劇そのもの。本来は初期の歌舞伎踊に対して、劇的な演目をさしていう。

注(6) 実録小説・実録体小説・軍談の双紙とも呼ばれ、講釈師の口述を詳細に記したものを整理したものである。講釈は明治以後には講談と呼ぶようになったものだが、大部分は作者不明、書き下し年代も推定し難い。享保７年〔１７２２〕、苛烈なまでに厳しい出版取締令が出された。禁圧を避け易い写本としての実録本の起原はそれ以後のことであって、同時にこれを取扱って読者の手許に提供する貸本屋もまた成立した。その多くが文化文政期〔１８０４〜３０〕を中心に、安政〔１８５４〜６０〕にわたり明治以前に作られたものである。御家騒動物、仇討物、裁き物、侠客物、情話物等の種別があるが、事実に空想を多分に混入して潤色し、読者の興味をひくことを主としたものである。なお、明治に入ると、実録物は版本または活字本となった。

注(7) 文徳天皇の事跡を漢文で記述した実録。貞観１２年〔８７１〕藤原基経らが撰して中絶、菅原是善らが加わって元慶３年〔８７９〕完結。１０巻。六国史〔りっこくし〕の一。六国史とは奈良・平安時代に編纂された官撰の６部の国史。即ち日本書紀・続日本紀・日本後記・続日本後記・文徳実録・三代実録の総称。

注(8) 六国史の一。清和・陽成・光孝３天皇の時代約３０年の事跡を記した実録５０巻。延喜元年〔９０１〕藤原時平・菅原道真・大蔵善行らが勅を奉じて撰述。

資料　大漢和辞典（諸橋轍次）

演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編）

総合日本戯曲事典（河竹繁俊編）